

スリナ・ビンティ・オスマン研究員（マレーシア）



はじめまして。私はマレーシアから来ましたスリナ・ビンティ・オスマンと申します。マレーシアでは、科学技術革新省の気象庁で働いています。気象庁の主な活動としましては、軍隊や一般市民を対象にして、気象予報や情報の提供を行っています。また同様に、一般市民を含め、各種メディアや災害関連機関に対しましても、マレーシア領土内で発生する、地震、気象、それにとりまなう最新の海洋情報などについても、早期警報システムを通して情報提供を行っています。この早期警報システムは、マレーシア国内の防災を取り扱う各省庁にとって、地震、洪水、地滑り、干ばつやその他災害における被害の軽減のため、非常に効果的なツールとなっています。

さて、私の現職である課著補佐の職務としましては、気象庁内における職員の人材育成として、能力向上のための訓練および研修の計画立案や実施に向けた全体的なコーディネートを担当しています。なおここで勤務する以前は、主に地震や津波発生に伴うモニタリングなどを担当していました。また、南シナ海における石油探索や開発を支援する、気象予測及び警報の発令等についても経験があります。このように、これら様々な私の業務経験は気象及び自然災害の課題に対して関心を持たせることになり、そして、現在の災害リスクの軽減や防災活動の分野での活動に繋がることになりました。

今回、ADRCの客員研究員プログラムに参加できることは私にとって大変有意義な機会になると思います。気候変動に関連する地震、津波、洪水など、様々な大規模災害を軽減させるためのリスク管理のための知識と能力の向上に繋がると思います。ここで得られる経験は、マレーシアに帰国して気象庁で業務をおこなう際に、きっと有益に働くと思います。また、先に発生した東日本大震災を経験した日本の経験及び災害対応などからも、多くのことを学ぶことができると思います。

最後に、本プログラムの参加にご支援をいただいたアジア防災センターと日本政府に感謝を申し上げます。合わせまして、このような機会を承認して頂いたマレーシア政府に対しましてもお礼を申し上げます。